

今年度は、SBSP ビームラインで大きな動きがみられます。BL6B では新たに R-AXIS-IV++ が導入され、BL6C では Galaxy が試用期間を経て、本格稼働を目前に控えております。BL6B のワイセンベルグカメラは、1996 年の稼働からこれまで、官民を問わず多くの研究者が使用し、数多くの成果が得られてきました。しかしながら、使用し始めた頃はそれほど気にもならなかった IP の交換作業も、最近になって他のビームラインで行われている CCD などの導入による自動化の波を目の当たりにするに到って、負担に感じるようになってきました。そういった意味では、こういった動きは我々企業研究者にとってはありがたいものです。今後は結晶などの状況に応じて、ビームラインの使い分けが行われるようになると思われます。

話は変わりますが、製薬業界では、世界的には企業の合併の噂やニュースが相変わらず飛び交っています。状況的にみて、売り上げランキングの争いは業績の拡大によらず、規模の拡大に終始している感があるように思います。経営の是非については全くわかっていないので、一概にはいえませんが、果たしてこれで良いのかと個人的には憂慮してしまいます。ただ、この再編の波が対岸の火事ではすまされなくなってきた今日、今後の動向にも配慮した迅速な対応が求められているように思います。

(S.S.)

#### 編集委員会

委員長	栗原 宏之 (山之内製薬)	kurihara@yamanouchi.co.jp
委員	曽我部 智 (日本ロッシュ)	satoshi.sogabe@roche.com
委員	幾田 まり (萬有製薬)	ikutamr@banyu.co.jp
顧問	田仲 可昌 (筑波大学)	ytanaka@sakura.cc.tsukuba.ac.jp